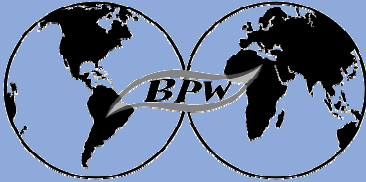


BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2017.9.1
Vol.113

【特集】

2017 年特定非営利活動法人
日本 BPW 連合会総会
香川大会

CONTENTS

- 巻頭挨拶
香川大会を終えて
香川クラブ会長 岡内 須美子
- 日本 BPW 連合会香川大会
 - 理事長挨拶・BPWI 会長挨拶
 - 基調講演（概要）
 - 2017 年 BPW パートナーシップ・エバリュエーション賞
 - ヤング・スピーチコンテスト全国大会
 - 分科会報告
- 第9回日本 BPW 連合会総会
 - 「香川宣言」を採択・提出

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：平松 昌子
編集：広報委員会

日本 BPW 連合会 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL. 03-5304-7874
FAX. 03-5304-7876

E-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ:

<http://www.bpw-japan.jp>

香川大会を終えて

香川クラブ 会長 岡内 須美子

2017 年 5 月 27(土)28 日(日)に、リーガホテルゼスト高松で開催された特定非営利活動法人日本 BPW 連合会総会・香川大会今大会には、全国からの会員67名、来賓、スピーチコンテスト出場者、一般参加者などを含め、合計124名の賑やかな大会となりました。無事に終えることができ、担当クラブ会員一同、心からお礼申し上げます。



第1部はケニア出身のムアンギ氏の「ケニアからのメッセージ～もったいないの心を通して女性の活躍を～」の基調講演から始まりました。もったいないのマータイさんは、アフリカでは女性の博士の第1号ではありながら国内では、能力を活かせず、迫害を受け、何度も投獄されますが、ノーベル平和賞の受賞で状況は一変しました。このように彼女はとてもパワフルで芯の強い女性で、日本で知るおだやかな顔とは全く別の戦う女性でした。環境問題でよく使う3Rはリデュース、リユース、リサイクルですが、ムアンギ氏はこれにリスペクトを加えました。「リスペクト」は大変印象的であり、BPWの次の企画にも組み込みました。第2部のヤング・スピーチコンテストでは各ブロックから4人が出場。日常の経験や仕事感、将来の夢を自分の言葉でパフォーマンスを交えて伝えることが出来る若者が増えてきました。第3部はBPWが力を入れている若者支援事業の1つ、CSW(国連女性の地位委員会)インターン第11期生の家田さんの報告。近年はインターンへの応募も多く、帰国後の彼女たちの活躍も目覚ましいものがあります。第4部は分科会。今回はGGGI(男女格差指数)が101位から111位に後退するという危機感の中で評価4分野(政治、経済、教育、健康)に分かれ、参加意識を盛り上げるためグループワーク形式で現状打破の方策を話し合いました。これをもとに作成する香川宣言の推敲に、役員が深夜まで頑張りました。

夜の部ではまず、パートナーシップ・エバリュエーション賞(行政とNGOとの協力関係を強化するためBPWが評価・表明)が高松市長大西秀人氏に贈られました。セレモニーに引き続き、懇親会では、香川クラブ会員による詩の朗読とフラダンスが予想以上に好評でした。また、参加された会員の顔と名前が分かるようにと、クラブごとに会員全員の自己紹介をすることにしました。

2日目の総会では、活発な意見交換があり、BPWへの皆さんの熱い思いが感じられました。総会を開くにあたって不安なことは多いのですが、限られた条件の中でも会員が一致団結し、持てる力を発揮すれば、何でも出来るものだと思えました。

今大会のテーマ「リーダーシップと行動で変化を起こそう」は、まさに、じっとしては何も変わらない。傍観者ではなく、できる人が、できることを、できることから行動に移すときが来ているということなのだと思います。

多様な分野の多彩な会員(まさにダイバーシテイ)がパワーと能力をもっともっと活かせるようになれば、BPWの未来は明るいと思えました。

今大会の開催に際しまして、ご協力ご支援いただきました多くの方々に改めて感謝いたします。

基調講演**『ケニアからのメッセージ』**

～もったいないの心を通して女性の活躍を～

講師：ゴードン・サイラス・ムアンギさん

(四国学院大学教授)



ゴードン・サイラス・ムアンギ教授は、ケニア生まれ。今回の講演では、2004年にアフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・

マータイをとりあげた。

彼女は、日本の言葉、「もったいない」を使い、環境運動を、ケニアだけにとどまらず、世界的なキャンペーンにまで展開していった。ムアンギさん自身は、1970年代より、マータイさんの活動に関心をもち、来日してからも、彼女のことを四国学院大学にも紹介してきた。ノーベル平和賞を受賞した時には、とても感動したが、名前のワンガリ・マータイから女性であると分かりにくく、あまり感動が伝わらなかったのには、ショックをうけたとか。

当時、ケニアではプラスチックによる環境破壊の問題を抱えていた。リデュース(ゴミ削減)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)という環境運動の3つのRを「もったいない」の一言で表した。さらに、かけがえのない地球資源に対するリスペクト(尊敬の念)、感謝の念も含まれる。ことに、リスペクトは、ジェンダー平等にも関係する。他者に対する尊敬、敬う心の大切さ。

彼女が取り組んだ環境問題すべての命の源であるケニア山のおかげ。人権問題もこのリスペクトが大切。これに向き合ったすばらしい女性たちのことを知っておかねばならない。世界人権宣言のエレノア・ルーズベルト、日本国憲法に男女平等を書いたベアテ・シロタ・ゴードンなど。

日本でも人権を訴えた住井すゑ、現在、ケニアに住み、スラム街でマゴソ・スクールという学校をつくり活動する早川千晶さんなど、素晴らしい活動をしている女性がいる。

ジェンダー平等への運動もリーダーがしっかりしないとうまくいかない。経済的な男女の不平等をうったえるE.P.Dの活動も重要であるが、人権の問題をやはり最重要としてほしい。ムアンギさん自身は、そのためであれば、どこへでも行き、なんでもされとのこと。

子どもの時に体験したケニアのイギリスからの独立解放闘争で命を落とした兵士たちをみているからこそ、平

和の大切さを当たり前と思わず、感謝し大切にしないといけない。まさに、もったいないの心であろう。

＜プロフィール＞1946年ケニア生まれ。6歳時から解放闘争が起き、社会混乱の中で育つ。69年ナイロビ大学入学。74年来日、京都大学大学院で政治学を学ぶ。南アフリカアパルトヘイト政策への反対運動に参加するうち平和学を研究する。90年四国学院大学准教授、96年教授。

**2017年BPWパートナーシップ・エバリュエーション賞
高松市長 大西 秀人 氏**

2017年日本BPW連合会香川大会のパートナーシップ・エバリュエーション賞は、高松市長 大西秀人氏に贈られました。

◆高松市長 大西 秀人 氏◆

大西市長は就任以来、女性政策に力を入れるとともに、子育てしやすいまちづくりを目指しています。女性の参画では、女性の局長級の人数、管理職比率もここ数年上昇しています。また、男性の育児参加促進策、イクボス奨励賞を授与するキャンペーンや育休復帰の支援をしています。一方、企業に対してもセミナーやアドバイザーの派遣の他、素敵にたかまつ女性活躍企業表彰などで女性活躍推進を図っています。

さらに、2009年全国に先駆けて「芸術士」を保育園等に派遣し、感性豊かな子どもたちが育つ環境づくりをすすめています。

第14回 ヤング・スピーチコンテスト

14回目となった今年も、全国の5つのブロックから選出された、様々な分野で仕事を持つ女性が素晴らしいスピーチを披露しました。

最優秀賞 磯部光さん(関東・山梨ブロック代表)
理事長賞 吉田和香奈さん(近畿ブロック代表)
ヤングBPW賞 本間真由さん(北海道・東北ブロック代表)
沖田 亮子さん(西日本ブロック代表)



※中部ブロック代表は、残念ながら仕事の都合で欠場されました。

分科会報告 『203050の実現を目指して「現状打破」に向けて』

分科会A

政治：女性議員を増やすために、女性議員の現状(中央・地方)と役割、課題と解決策

コーディネーター：平松昌子(東京クラブ)

参加人数：16名(会員14名、一般2名)

目的 日本のGGGI順位を低くしている大きな要因は、日本の「政治」分野における男女格差である。国会議員、その供給源ともなる地方議員の女性割合が増えないのは何故か、どうすれば女性議員を増やすことができるのか、その障壁と解決策について議論する。

討議内容 ①女性議員比率(国会、都道府県、市区議会、町村議会)の現状②女性議員はなぜ必要か③とにかく地方議員に女性を

提言

1. 日常生活と政治との関わりを、暮らしの中で幼少期から身近に学習する体制を確立する
2. クオータ制の法制化を実現し、地方選挙も含めて1人区の解消など選挙法の改正を要求していく
3. 候補者の育成支援、特に女性が選挙に出ることへの環境整備、女性議員への応援・支援体制、産休など女性議員の環境整備を提言していく
4. 女性議員の実数、比率などのデータを毎年定期的に公表し、女性議員の実情を「見える化」するよう担当省庁に要求する

分科会B

経済：賃金格差、女性管理職比率、長時間労働等企業側・女性側の抱える問題

コーディネーター：名取はにわ(東京クラブ)

参加人数：17名(会員11名、一般6名)

目的 203050の実現において現状打破のために何をすべきか、賃金格差、女性管理職比率、長時間労働等企業側と女性側の抱える問題など具体例を挙げてその解決策を話し合った。

討議内容 どうすればGGGI118を脱出できるか。EPDを今後どのように活かしていくか。

提言

1. 男女間の賃金格差を少なくするために、「えるぼし」認定基準に賃金格差項目を入れ、事業者の意識を高める。
2. 女性の就労意欲を阻害している、第3号被保険者、配偶者控除制度の見直し行う。介護保険料を負担しておらず(夫が妻の保険料を払っているのではない)、それが若い勤労者を含め国民の負担となっている。1985年までは自己負担であったものであり、現在の日本の財政状況に鑑み、早急に検討を見直しすべきである。
3. イコール・ペイ・デイを、一般市民が身近に理解できるように工夫する。

分科会C

教育：高等教育への進学率格差、教育における男女役割意識、貧困による教育格差

コーディネーター：花崎正子(北九州クラブ)

参加人数：23名(会員17名、一般6名)

目的 GGGIが示すような日本の「女性の現状」を打破するためには、日本の教育・学びのあり方の変革が緊急課題であることは論を俟たない。ここでは、高等教育における進学率・神学分野の男女の差異はなぜ発生するのか、また、貧困によって教育格差が起こるのはなぜなのかを中心に、教育における性別役割分業意識を踏まえながら、その解決のために我々は何をすれば良いかを議論する。

討議内容 ①高等教育への進学率格差②貧困による教育格差③教育における男女役割意識についてグループに分かれ、課題解決方策を討議した。

提言

1. あらゆる分野で高等教育を受けて活躍していける女性を増やす社会を構築しよう！！
2. ・無償の奨学金を増やせ！！・「親」の行政支援。
・子どもの頃からライフプランについて学ぶ機会を増やす(経済観念・世の中の仕組みを知る)
3. 家庭・学校・地域・職場を始め、社会全体での価値感(観)、生き方変革

分科会D

健康：健康寿命、社会における高齢者の貢献

コーディネーター：濱田啓子(札幌クラブ)

参加人数：22名(会員16名、一般6名)

目的 いつまでも社会に貢献するためには、健康寿命を延ばすことが何よりも大切。高齢化社会の現状をふまえて、働く女性の視点から高齢者がいつまでも元気に社会に貢献する生き方について考える。

討議内容 ①あなたにとって健康とは②あなたが実践していること③あなたの地域の実践例についてグループに分かれ、討議した。

提言

1. 仲間・仕事・役割を持った生活により、生涯現役で活躍できるよう健康寿命を伸ばす。
 2. 高齢者が果たしている役割に気づき、評価する社会を作る。
- ※きょういく(今日、行くところがある)、きょうよう(今日、用がある)を、大切に！



特定非営利活動法人
日本 BPW 連合会第9回総会
議長/丸岡規子
副議長/木村悦子
書記/白神幸子・網千代美
(全員香川クラブ)
会員数 286 名
委任状を含む出席者数 253 名

《総会議題》

第1号議案 議事録署名人の選出
議事録署名人に丸岡規子議長、
名取はにわ理事長、岡内須美子
理事を全員一致で選出

第2号議案 議題の承認
全員一致で承認

第3号議案 2016 年度事業報告

第4号議案 2016 年度会計報告

第5号議案 2016 年度監査報告

3～5 号議案、質疑応答の後、
全員賛成で承認

第6号議案 2017 年度統一テーマ・
活動方針(案)

第7号議案 2017 年度事業計画(案)
上記 2 議案を一括して表決し、全
員賛成で可決

第8号議案 2017 年度予算(案)
表決の結果全員賛成で可決

第9号議案 役員改選・理事の承認
専務理事が提案し、表決の結果
全員賛成で可決

■■ 新執行部 ■■

理事長 平松 昌子
副理事長 名取 はにわ
副理事長 棚田 美津子
副理事長 小原 智津
専務理事 齋藤 京子
会計 佐藤 道子
企画委員長 岡内 須美子
組織委員長 林 智意
広報委員長 居石 真理絵
国際委員長 布柴 靖枝
財務委員長 藤田 ひろみ
ヤング委員長 林 乙羽
監事 濱田 啓子

＜クラブ代表理事交代＞

札幌クラブ/新:中田美知氏、
旧:佐藤久美氏
北九州クラブ/新:花崎正子氏、
旧:廣澤洋子氏
長崎クラブ/新:黒崎伸子氏、
旧:田平美恵子氏

男女共同参画社会の実現に向けて、香川宣言を採択

香川宣言 203050 の実現を目指して

日本 BPW 連合会は、2030 年までに完全な男女平等(50－50 フィフティ
フィフティ)を実現するため、男女格差指数(GGGI)が 101 位から 111 位に
後退した衝撃を踏まえ、2017 年 5 月 27 日の香川大会において、GGGI
評価4分野の各視点から議論を重ねた結果、現状打破を目指し以下の宣
言を採択する。

政治分野において：女性議員比率を上げるために

1. 日常生活と政治とのかかわりを暮らしの中で幼少期から身近に学習する体
制を確立する。
2. クオータ制の法制化を実現し、地方選挙も含めて「一人区の解消など選挙
法の改正」を要求していく。
3. 「候補者の育成支援、特に女性が選挙に出ることへの環境整備」「女性議
員への応援・支援体制」「産休など女性議員の環境整備」を提言していく。
4. 女性議員の実数、比率などのデータを毎年定期的に公表し、女性議員の
実情を見える化するよう担当省庁に要求する。

経済分野において：賃金格差を無くすために

1. 男女間の賃金格差を少なくするために、「えるぼし認定基準」に賃金格差
項目を入れ、事業者の意識を高める。
2. 女性の就労意欲を阻害している、第 3 号被保険者、配偶者控除の制度の
見直しを行う。
補足：現行制度においては、第 3 号被保険者(一般的にサラリーマンの妻)
は、年金保険料、健康保険料、介護保険料を負担しておらず(夫が妻の保険
料を払っているのではない)、それが若い勤労者を含め国民の負担となってい
る。1985 年までは自己負担であったものであり、現在の日本の財政状況に鑑
み、早急に見直しを検討すべきである。
3. イコール・ペイ・デイを、一般市民が身近に理解できるように工夫する。

教育分野において：高等教育への女性の進学率を上げるために

1. あらゆる分野で活躍できるように、男女平等の教育を徹底し、性別役割分
業意識を解消する。
2. 高等教育への女性の進学率を高め、専攻分野の偏りをなくするため、男女
で差異のないキャリアをデザインできる豊かな体験や機会を十代から確保す
る。
3. 貧困の連鎖を断ち切るため、子どもへの教育支援を充実する。(奨学金制
度の充実等)

健康分野において：女性の健康寿命を延ばすために

1. 全ての女性が、仲間・仕事・役割を持った生活により、生涯現役で活躍で
きるよう健康寿命を延ばす。
2. 高齢者が果たしている役割に気づき、評価する社会を作る。
※きょういく(今日、行くところがある)、きょうよう(今日、用がある)を、大切に!

採択された「香川宣言」は、平松昌子理事長らにより 6 月 26 日に武
川恵子内閣府男女共同参画局長、有松育子文部科学省生涯学習政策局長
に、30 日に吉本明子厚生労働大臣官房審議官に手渡された。

編集後記：

香川大会の詳細につきましては、会報で報告させていただきます。
編集にご協力いただきありがとうございました。